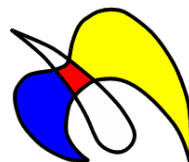


ななかまど



特別号

 学校ホームページアドレス <http://www.16sapporo-c.ed.jp/nakanoshima-e/>

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果より

4月に6年生の児童を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本調査で把握できるのは、児童の学力や学習状況の一部分であり、学校の教育活動の一側面ではありますが、結果を分析し、本校の教育活動の一層の改善に努めてまいります。

今後とも、本校の教育活動につきまして、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向性等について

本校の調査結果の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【内容】 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ◇平均正答率は 65.4%で、全国平均をわずかに下回っている。	●「みじかい」の正答率は 80.0%と高い一方、「ふしぎ」の書き直しは 38.6%であり、漢字によってその定着度に差が見られる。	○漢字の読み書きといった基礎的な知識に加え、文脈に応じて適切な言葉を選択し使い分ける指導を強化していく。
「情報の扱いに関する事項」 ◇平均正答率は 52.1%で、全国平均とほぼ同水準、北海道平均を上回っている。	●情報を整理する力はあるものの、資料を引用して自分の考えを書く問題の正答率は 20.0%と全国比で低迷している。	○複数の資料から必要な情報を適切に抽出し、自分の考えの根拠として効果的に構成・記述する練習を日常的に取り入れていく。
「我が国の言語文化に関する事項」 ◇今回の調査において、この領域に該当する設問は設定なし		
「話すこと・聞くこと」 ◆平均正答率は 62.9%で、全国や北海道の平均を数ポイント下回っている。	●構成メモの工夫(73.9%)は良好だが、比喩や反復などの表現の工夫を捉える力に課題が見られる。	○相手に伝えるための構成力は維持しつつ、表現技法がもつ効果を理解し、対話の中で使いこなす活動を増やしていく。

「書くこと」 ▼平均正答率は 37.9%であり、全国平均を大きく下回っている。	●記述式全体の正答率が全国平均より約 9 ポイント低く、目的や根拠を明確にして書く力が不足している。	○文章構成のモデルを提示し、書く目的を意識させながら、論理的な文章を最後まで書き切る習慣を定着させていく。
「読むこと」 ◇平均正答率は 65.7%と、全国平均に迫り、北海道平均を上回る良好な結果である。	●文章特徴の把握は得意だが、経験と結び付けて書く問題の解答率が低かった。	○叙述に基づき自分の考えを形成する指導を強め、粘り強く記述に取り組む姿勢をアウトプット活動を通じて育てていく。

【算 数】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向性等について

本校の調査結果の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【領域】 「数と計算」 ◇平均正答率は、61.4%で、全国や北海道の平均を上回っている。	●小数の仕組み(94.5%)などは良好だが、四捨五入(61.4%)や分数の大小比較の理由記述(44.3%)に課題がある。	○基礎計算の定着を維持しつつ、数の性質や計算の根拠を言葉や図を用いて論理的に説明する活動を大切にしていく。
「図形」 ◇平均正答率は、63.6%であり、全国平均を 8 ポイント以上も上回った。	●直方体の面に関する理解(72.9%)は高いが、辺の長さを捉えて求め方を記述する問題(51.4%)に改善の余地がある。	○図形を構成する要素に着目させる指導を継続し、図形の特徴を数学的な用語を使って多角的に説明する力を育てていく。
「測定」 ◇平均正答率は、81.4%に達し、全国平均を大きく上回る極めて良好な結果となった。	●立方体の体積計算(72.7%)はできているが、単位の数から体積を捉える意味理解(38.3%)は全国より低めである。	○公式の適用だけでなく、測定の意味や単位の仕組みを具体物や生活場面と結び付け、実感を伴って理解できるようにしていく。
「変化と関係」 ▼平均正答率は、38.1%で、全国平均を大きく下回っている。	●割合の計算(60.0%)であったが、式の意味の判断(36.1%)や図と式の関連付け(34.2%)に課題が見られる。 (例) I 組 22 人が 6 年生全体の 30% にあたります。6 年生全体の人数は？	○数量の関係を線分図などで視覚化し、立式の根拠を考えたり、式の意味を事象と結び付けて解釈したりする機会を増やしていく。
「データの活用」 ◇平均正答率は 51.4%で、全国平均を上回り、全体として概ね良好な状況にある。	●帯グラフの読み取り(77.1%)は高いものの、二次元の表から複雑な条件に合う数を読み取る力(17.9%)は非常に低い。	○複数の情報が混在する表やグラフから、目的に応じて必要なデータを適切に選択・整理し、結論を導く技能を養っていく。

【児童質問紙調査】

本調査では、生活習慣、学習意欲、学習方法、学習環境等についての質問紙調査も実施されました。ここでは、全国平均と比較して特徴的だと思われる項目を中心にお知らせいたします。

全国平均と比較して肯定的な回答の多いもの

学習への意欲、ICT 活用スキル、および教職員との信頼関係において、全国平均を大きく上回っています。

- 先生は分かるまで教えてくれている(67.6%)
- ICT 機器でプレゼン資料を作成できる(60.3%)
- 友達と協力して課題解決に取り組んでいる(60.3%)
- 国語の勉強は好きですか(42.6%)
- 英語の勉強は好きですか(54.4%)
- 先生は自分のよいところを認めてくれている(69.1%)
- 人の役に立つ人間になりたい(83.8%)
- 先生や学校の大人にいつでも相談できる(48.5%)
- ICT 機器を使って情報を整理できる(45.6%)
- 算数の授業の内容はよく分かる(50.0%)

全国平均と比較して肯定的な回答が少ないもの

学校生活全般に対する幸福感や、いじめに関する規範意識、一部の生活習慣において全国平均を下回る項目が見られます。

- 学校に行くのは楽しい(「当てはまる」のみ)(27.9%)
- 普段の生活で幸せな気持ちになる(「よくある」のみ)(35.5%)
- 自ら課題解決に取り組んでいた(38.2%)
- いじめはどんな理由があってもいけない(75.0%)
- 朝食を毎日食べている(79.4%)
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている(38.2%)

【児童質問紙結果から】

※調査結果から見える中の島小学校 6 年生の意識の特徴は以下の通りです。

1. **先生への強い信頼と満足感** 先生が「自分のよいところを認めてくれている」「分かるまで教えてくれる」と感じている割合が非常に高く、困った時の相談先としても先生を信頼しているという結果が出ています。教育活動において**教職員との良好な関係**が築かれていることが推察されます。
2. **高い ICT 活用能力と自信** 特に「プレゼンテーション資料の作成」や「情報の整理」において、全国平均を圧倒的に上回る自信を持っています。一方で、5 年生までの授業での活用頻度は全国平均より低かったという回答もあり、**集中的かつ効果的な指導**によってスキルが身に付いている可能性があります。
3. **利他的な意欲と協調性** 「人の役に立ちたい」という強い願いを持ち、実際の授業でも「友達と協力して課題を解決する」姿勢が定着しています。**社会貢献への意欲と集団での学習習慣**が備わっていると言えます。
4. **「非常に楽しい」と感じる層の少なさ** 学校生活への満足度（「楽しい」）や日々の幸福感（「幸せな気持ちになる」）について、「当てはまる/よくある」という**最も強い肯定を選んだ児童が全国平均より少ない**点は注目すべき課題です。「どちらかといえば当てはまる」を含めれば一定数に達しますが、学校生活に対して喜びを感じにくい状況を普段の児童との会話や様子から、探っていく必要があります。
5. **規範意識と学習態度の課題** いじめを否定する意識や、自ら課題を見つけて取り組む自律的な学習姿勢が全国平均をやや下回っています。これらは、今後の生活指導や学習指導において**個々の内面的な意識を高めるアプローチ**が必要な分野と言えます。